

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2773302175		
法人名	社会福祉法人 モアーマインド		
事業所名	グループホーム モアーマインド		
所在地	大阪市西成区天下茶屋北2-4-14		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和2年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と疎遠な方が多いので、家庭的なぬくもりのある施設として運営していければと思っております。食事に関しては、入居者様に対して手作りで心のこもった温かいものを提供することを心掛けています。身体機能の低下を防ぐために、希望される方にリハビリをする機会のお手伝いをしています。例年、運営推進会議を通して、地域行事にも積極的に参加し、地域の方々と入居者様がふれあう機会を設けるよう努めていますが、コロナ禍の影響で今年度は参加できていません

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年3月に開設し、14年半を経た当事業所は利用者のほとんどが独居者で親族・馴染みの人の関係が薄く、その分等事業所が力を入れて家庭的で温かい雰囲気づくりに取り組み、利用者の笑顔を糧に法人の方針の中にある「心のこもった福祉」の具現化に努めている。食を健康の源と位置づけし、職員が交代で温かい手作りの食事を提供している。以前の小学校だった場所で行われる地域行事(桜まつり・夏祭り・イルミネーションを飾っての模擬店の催し等)に積極的に参加し、毎月1回の廃品回収(段ボール)に携わり、地域の中の一員としての生活が定着している。又近隣の方が介護相談に施設を訪れることもあり、地域の福祉施設の役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し事務所内に掲示し職員が周知するようにしている。	「思いやりのある心 あなたを大切に 地域との交流を大切に」の理念をリビングの目につく所に掲げ、フロアミーティングや全体会議で随時確認しながらケアに取り組んでいる。開設時に作成した理念の共有については、職員間での認識度が低くなってきているので、確認と振り返りが課題となっている。	日々のケアにおける根本的な考え方を示した理念を全体で共有し、認識と確認を徹底しながら実践に繋げる事に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域行事にも積極的に参加していましたが、コロナ禍の影響により参加できていない。ただ段ボール回収などのお手伝いは引き続き継続している。	町会に加入し回覧板等で地域の情報を得ている。以前の小学校だった場所で地域の行事“桜まつり、夏まつり、イナマリエ(イルミネーションの点灯と模擬店が出る)”に参加して地域の人との交流を深めている。月1回の資源ごみ回収(段ボール)の参加や、介護相談に近隣住民の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方々や地域包括からの介護相談や入居相談も積極的に受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の割合で運営推進会議を開催していましたが、コロナ禍の影響により今年度は実施できず、文章による報告にとどまる。地域住民の方々や地域包括の方からの助言も参考にして施設運営の向上に努めている。	運営推進会議構成メンバー参加の下、奇数月の開催としているが、コロナ対策で直近の2回は文書での報告となっている。ホームの取り組み内容や研修・行事報告を行っているが、参加メンバーの意見交換が少ないので、今後の会議の充実に向けて検討したいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の福祉担当の方と相談したり連絡をとり、入居者様がより良い環境、サービスが受けれるようにしている。	区の生活支援課の窓口や電話でホームの現状報告をし、相談事や指導を貰っている。公的扶助受給者(14/17)が多く区のケースワーカーや訪問担当者と連携を密に取り合っている。地域包括支援センターとは、ホームの空き室や受け入れ態勢について頻りに連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、マニュアルに沿った研修を実施する。個別事案が発生した場合は事案をもとに検討ミーティングを行い記録に残し、その結果を職員間で情報を共有する。	身体拘束適正化指針文書を整備し、年2回の身体拘束の研修を実施している。2ヶ月毎の運営推進会議で事例に基づいた身体拘束適正化委員会の勉強会を行い、内容や弊害について理解し、日々のケアに取り組んでいる。不適切な声かけの際には個別で管理者が注意を促している。	研修や身体拘束適正化委員会の開催は実施しているが、記録や議事録が様々なファイルに混在し、閲覧が困難で非効率的となっている。明快な資料整備を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングの際に拘束・虐待がないように話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で理解・活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様・家族様と面談時に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで、契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置している。また絶えずご家族様の要望に対して、管理者及びスタッフが話し合い状況を説明している。	利用者の半数が意見の表出が出来て、日々の生活の中で聞きだしている。利用者は独居の方が多く、家族訪問は3/17人と少ないが、訪問時には近況報告をしながら要望を聞いている。コロナ禍の中で外出が少なくなり、運動不足を懸念している意見に買い物の機会や、ホームの廊下での歩行を取り入れて改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティングや全体ミーティング、個別面談にて意見交換をして対応している。	管理者・職員のコミュニケーションは良好で、日頃から気づきや提案を出せる環境となっている。不足した備品の購入等、即解決できる事案は対応し、共有部分の飾りつけの意見などは全体で検討しながら取り組んでいる。個々の相談事の面談は希望に応じて管理者が行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員個々の勤務状態・実績を把握し、各職員にあった労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に二回自己評価を行い、職員個々のレベルを把握し、内部研修や勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は稼働会議を行い、同法人内の他施設との情報交換の機会を用意している。また同法人内の他施設共同の研修会を行い、技術の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、自宅訪問など状況に応じて面談の機会を作り、より良く話を聞けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の状況を十分に把握して不安な気持ちを少しでも軽減できるようにし、安心感が持てるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・家族様の要望にあったサービスがうけられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできる事、出来ない事を把握して、個々にあったサービスができるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族の話をしたり、ご本人に好きなものを教えてもらうなどして当施設での生活向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人や入居までに関わりがあった支援者の方などが気軽に訪問できるような雰囲気づくりに努めている。	併設の小規模多機能施設を以前利用していた人に近隣の知人が訪れたり、家族の訪問がある。馴染みの理容院への支援や、電話・手紙の取次ぎの希望に応じて今迄の馴染みの人や場所への繋がりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで集えるような雰囲気づくりをしたり、コミュニケーションの場づくりができるように努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との付き合いを大切にし、良い関係が築けるよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を日常的な会話や行動で把握するように努めている。	入居時のアセスメントシートを基に日々の生活の中から、話しかけ・問いかけで聞き取り、表出が難しい人には行動・表情で掴み取っている。リラックスした入浴時や夜間時の話しやすいタイミングで、どのように暮らし何をしたいかの要望を話す人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様、ケアマネージャーから以前のサービス利用の情報を得て把握できるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事摂取の状況確認、毎月の体重測定を行い心身の状態の把握、異常を早期発見できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一回、介護計画の見直しを行い、必要に応じて話し合いを持ち、ご本人・ご家族・スタッフの意見が反映した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスと6ヶ月毎のモニタリングを行い、医療・健康内容を記した生活記録や経過記録を参考に短期(6ヶ月)長期(1年)の計画作成を行っている。身体状態変化時には臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いスタッフ全員が共有した情報を持ち、介護支援できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や往診などの連携や相談、老人会などの参加ができるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、季節に応じた、地域の行事やお祭りに参加している。今年はコロナ禍の影響によりイベント開催が見合わせているため参加できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、又はご本人希望の医院での定期的な受診ができるよう支援している。	協力医院の内科の受診は職員が車で同行し、外出機会の少ない利用者が気分転換が出来る好機と捉え、帰りに買い物や外食など利用者のニーズに応じている。協力医療機関の内科の往診は通院以外の方が月2回受け、歯科の往診は希望者が受けている。泌尿器科の受診者にはホームが同行支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院や主治医との連携を持ちご家族との方針が決められるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も主治医と相談し、退院にむけての方針を話し合い、安心安全な生活がくれよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りは行っていないため、終末期には医療機関との連携により話し合いをもって対応できるよう支援している。	入居時に重度化や終末期について説明し、ホームでの看取りを行わない方針を伝えている。身体状態変化時は適切な医療機関と連携し、事業所として出来る事・出来ない事を説明して同意を得ている。	終末期・看取り対応についての説明や、身体状況変化時の緊急搬送する旨を入居時に口頭で説明をしているが、重度化・終末期における対応指針文書の作成と同意書を交わし、利用者や家族に意思確認の徹底を図ることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを全ての職員が把握し、フロアーミーティングなどで話し合う機会を持ち、その場に応じた対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中と夜間の火災想定で消防署立会いで行い、避難や消火の指導を受けている。	併設の小規模多機能施設と合同で火災時の避難訓練を、日中と夜間想定で年2回消防署立ち会いの下で実施し、三角巾の使い方や消火器取り扱いなどの指導を得ている。町会の防災訓練に参加し、非常時の協力を呼びかけている。備蓄品(水、缶詰、カセットコンロ、毛布、リネン類)を各フロアに整備している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して必ず個人情報はスタッフルームで話をするようにし、一人ひとりを尊重した声掛けをするようにしている。	接遇研修を行い「温かく、自分の親としての気持ちで接してほしい、自分がされたら嫌なことはやらない」を基本に利用者の視点にたったケアを心掛けている。食事や入浴の時間は本人の意向やペースに合わせ、尊厳を大切にプライバシーに配慮した対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが表現しやすい雰囲気づくりや一人ひとりに合わせた説明方法を用いて、理解していただき、自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に理髪店などに同行し外出時の身だしなみが行える声掛けをしている。また、その人らしい服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを取り入れたり、楽しく食事ができるよう支援している。片付けや準備などできる事は一緒にするよう心掛けている。	献立付きの食材が2日毎に配達され職員が交代で調理している。イベント時の特別食(地域のおでん等)おやつ(ホットケーキ、たこ焼等)を職員と作り、全員が完食している。盛り付け、テーブル拭き、下膳など出来る範囲で利用者は参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量を調整するとともに、食べやすいように調理法を工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや義歯洗浄の声掛け、援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせた声掛けを行うとともに自立に向けた支援を行っている。またできる限り、プライバシーに配慮してオムツ交換などを行っている。	生活記録(尿・便の排泄、水分補給、体温等)を参考に事前の声かけやトイレ誘導で17人中13名がトイレでの自然排泄を行っている。夜間はリハビリパンツ・パット・オムツなど様々だが4時間毎の見廻り時の交換を行い、安眠を重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	口腔体操や水分補給を十分行い、排便をチェックし、受診時に相談ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回、時間帯や体調に合わせて、ご本人の希望で入浴をしている。	入浴は週2回を基本としているが午前・午後の時間帯は好みで入浴している。一人ずつ浴槽の湯を入れ替え、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。拒否の人には時間や曜日の変更と職員の交代で対応し清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時にはゆっくり話を聞くなど、安心して眠れるよう支援している。また日中は食後の休憩が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	サービス提供票・薬箋などで、個別に薬などについて十分理解した上で、確認して投与できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散髪、散歩などのできる限り外出をし、ご本人が選んだ嗜好品を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換できるように、希望時や定期的な声掛けを行い、買い物、散歩、リハビリなど外出できるように心掛けている。	日常の外出は周辺散歩やスーパー・コンビニの買い物に出かけ、玄関前のベンチでの日光浴やプランターの花に水やりをしている。季節により旧小学校へ徒歩で桜の季節の花見や地域行事(夏祭り・イルミネーション見学)に出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している入居者には、自由にお金が見えるように、買い物時に同行支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは、本人希望でいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は毎日行い、リビングにはソファなどを置くなどして集える雰囲気になっている。入居者の状態に合わせてテーブルの配置などを変え、入居者が無理なく過ごせるよう工夫している。	リビング兼食堂は手作りカレンダー、季節の壁掛け(七夕飾り等)を飾り、テレビの前にソファが設置し、個別で語れる場所を整えている。リビングのテーブルは車椅子利用者や利用者の関係性に配慮して、テーブルを配置している。廊下・トイレ浴室等清掃が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たりテーブル席で自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置けるスペースを確保し、本人が慣れた場所に収納できるように配慮している。	ベッド、エアコン、防災カーテンが設置され、テレビやタンス・本等馴染みの物を持ち込んで居心地良く過ごせるその人らしい居室で、安全面に配慮して動線確保にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの柵やトイレ、廊下の手すりを設置し、安全に自立した生活が送れるように努めている。		